



# JAL不当解雇撤回ニュース

No615号 2020.12.08  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819  
<http://www.jalkaikotekkai.com>



## 今日もパワーを貰った！明日からまた頑張ろう！

11月5日に行われた東京西部集会に続いて、11月26日には「JAL 不当解雇撤回闘争を支援する東京北部集会」が開催されました。コロナ対策として300名入る大きな会場を選び、120名の参加者がゆったりと座ることができました。毎日新聞記者で元国民支援共闘代表である東海林智氏が、「新型コロナ禍の雇用情勢 JAL 争議の今日的意義を考える」と題して講演（講演内容は後述）を行い、続いて内田客乗団長と斎藤乗員副団長が決意表明をしました。集会終盤には争議団全員が前方に並ぶ中、集会の決議文が採択され、早期解決を誓う元気な集会は閉会しました。この間会場でカンパが集められ、争議団に手渡されました。

### 争議団からの決意表明

内田妙子客乗団長  
斎藤晃乗員副団長

内田団長は、「一生消えない傷を残した解雇。いかに必要のない解雇であったことが鮮明になった10年。尊厳と誇りを回復したいと闘って来た」と10年の思いを語った。そして、解決する意義について、「雇用不安の払拭に繋がる。雇用の維持こそ企業の責任であり社会貢献である。国際労働基準を守る事を示すことも他企業への模範となり、本当の意味での労使関係の正常化と安全運航を保障するものである」と述べ、「年内解決に迎える状況を作って行きたい。力いっぱい頑張るのでご支援をお願いしたい」と訴えました。また、斎藤副団長は、自衛隊から民間に入り、解雇されて労働組合の大切さ・有難さを知ったことを述べ、「10年近く闘ってこれたのは、理不尽な解雇は絶対許せないという気持ちと、皆さんからの支援のおかげだと思っている。この北部集会で更にパワーを貰った。明日からまた年内解決を目指して頑張る」と訴えました。

### 決議文採択

翌日、集会実行委員ら3人が決議文を持参し、本社に要請に行き提出しました。



# JAL 争議は雇用責任を徹底的に追及する争議！

## コロナ禍の労働者を励ます争議！

### 前を向いて誇り高く闘っていこう！

コロナ禍であらゆる業種が深刻な状況。多くの会社で休業に入ったが、会社に行かなければならない仕事がある。働いていた多くの人は非正規労働者。正社員は休業を強いられる中で休業補償を貰い、多くの非正規労働者は補償を貰えずに休まされる。ある大学の調査で、6割の学生が授業料が払えないため休学、退学を考えているという結果。家計がギリギリの中、仕送りが減り、アルバイトで生活し授業料を賄う。コロナで仕事がなくなり学業が続けられないからだ。



メトロコマースの組合は65才を過ぎても雇用継続を会社と合意していたが、コロナで切られた。何の言葉もかけられず会社を去った。コロナで日雇い派遣が温存されていたことが明らかになった。ネットカフェに寝泊まりし、日雇い派遣の仕事で生活している。ネットカフェが閉められ、行政は再開までビジネスホテルを準備。不安定な働き方が温存され、少ない仕事を奪い合う。世の中全体が止まった時に不安定雇用の人が食べていけなくなる。

犯罪組織に捕まる。「現金即日払い、高額」で検索すると闇の仕事に繋がり入っていく。特殊詐欺の受け子の仕事である。年金少なく定年後も働いていたがコロナで仕事なくなる。若い女性、高齢者、外国人実習生、犯罪につながる状態になっている。理由は明白で、不安定な雇用で働かせているから。

個人請負の働き方も拡大。ヤクルトレディは個人事業主として契約、労働契約でない。明日から1ヶ月休みだと通告された。労働者として働きながら労働者として扱われない。休業補償しないのはおかしいと交渉して、労基法上の6割の休業補償を約束させた。巣ごもりでウーバーイーツを使う人が増えた。配達員も増えた。配達バッグを5000円で買わされる。ネットカフェの人は自転車も持てない。レンタサイクルの電動チャリで仕事。究極の自転車創業。スマホさえあれば一日何とかしのげる。事故を起こしても補償されない。食事を運べと指揮命令しているのに、個人事業主として扱う。人を使っている責任を取ろうとしていない。こう言う働き方を許したのは安倍政権で、コロナで矛盾が表面化した。

労働力がモノのように切り売りされている。企業にとってこんな都合の良いことない。何の責任も取らず人を好きな時に好きなように使える。不安定雇用の人が追い込まれている。副業の自由化も進んでいる。この会社で食べて行けなかったら他で働いても良いと。まともな賃金を出さないとやっていることだ。雇用責任を取らずに人を使う。

JAL 争議は雇用責任を追及している争議である。「人を雇うルールがあるのだから、人として扱い勝手に解雇するな」「労働者はモノではない。労働者として扱え」「誇りを奪うな」と正面から掲げて闘っている争議である。多くの仲間がJAL 争議の結果を見ている。苦しい闘いをしている人も、この争議が勝った時に「自分達も勝てるかもしれない。おかしい事はおかしいと声を上げる事は間違っていない」と、労働者を励ます誇り高い争議である。厳しい闘いだが、前を向いて誇り高く闘っていこう。心からの連帯をこめ共に頑張ろう！